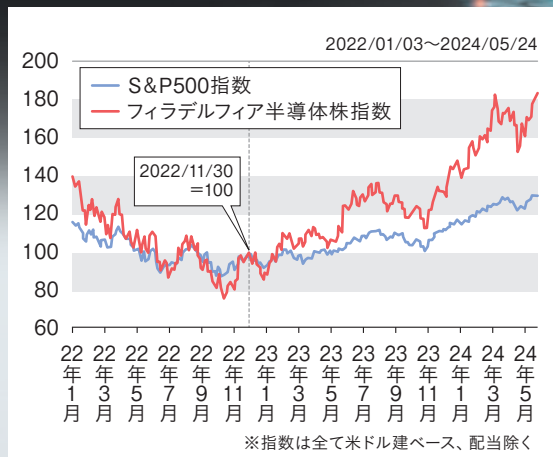


テーマ投資で 経済トレンドの波に乗る

図1 米国株式市場(S&P500指数) vs
半導体市場(SOX)の比較



出所: QUICKのデータをもとに三菱UFJモルガン・スタンレー証券作成

AI以外で最近話題となっている投資テーマといえば、「肥満症治療薬」、「地政学リスクの高まりと、これに伴うサプライチェーンの見直し」などがあり、いずれの市場も活況だ。こうしたテーマ投資には、ストーリー性があるのでわかりやすく面白みがある。例えばAIというテーマが半導体や通信、電力業界につながっていくように、社会動向や実生活から市場を見て、ここ数年期待されているテーマを選んで投資できることが魅力のひとつだろう。

AI関連ではほかに、米アルファベットや米アマゾン、米マイクロソフトなどクラウドビジネスを手掛けるハイテク企業の株も好調だ。また、AIが普及するとデータ処理や通信の量が跳ね上がるとの読みから、データセンターや通信塔をはじめとする通信施設関連、ネットワーク機器関連への投資も増えている。

理が主な用途だった同社の半導体はAIの訓練や学習と呼ばれる開発に適していると考え、AI用の半導体市場で高いシェアを誇る。今年6月18日、エヌビディアの株式時価総額が3兆3350億ドルを突破し、米アップル、米マイクロソフトを抜いて世界首位に躍り出たことは記憶に新しい。

何らかのテーマやストーリーに沿って投資を行うことを「テーマ投資」と呼ぶ。これから盛り上がり、息の長いブームが続くテーマを見つけて投資し、利益を上げるにはどうすればよいか。知っておきたいテーマ選びのコツや留意点も解説する。

株式市場でここ数年期待されている

テーマといえば「AI(人工知能)」だろう。AIの開発には高性能の半導体が欠かせないことから、最初に注目を集めたのがAI用の半導体だ。S&P500指数(米国株式市場の代表的な指数)とフィラデルフィア半導体株指数(半導体関連の代表的な指数。SOXともいう)を比較しても、AIブームの火付け役となったChatGPTの公開(2022年11月)以降、半導体株のパフォーマンスが市場全体を上回っていることがわかる(図1参照)。AIブームの恩恵を最も受けた半導体企業といえば、米エヌビディアだ。もともとゲームの画像処

自分でテーマを選ぶ

GRAN NEXT

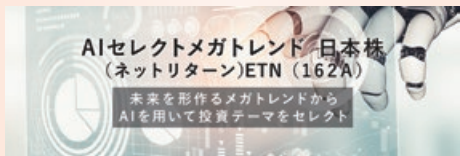
投資信託商品。シリーズ内にGRAN NEXT エネルギー、GRAN NEXT モビリティ、GRAN NEXT フード、GRAN NEXT ヘルスサイエンス、GRAN NEXT テクノロジー、GRAN NEXT フィナンシャルズ、GRAN NEXT マネープールファンドの7商品があり、商品間のスイッチング手数料は無料。自分の判断でテーマの切り替えや運用待機ができる。



テーマ選びをAIに任せる

AIセレクトメガトレンド 日本株 (ネットリターン) ETN (162A)

東証上場のETN(価格が特定の指数と連動する投資商品)。AIが言語分析を行い、対象となる投資テーマに対する市場の注目度をスコアリング。四半期毎に注目度が高い4テーマを選定するMSCI社の指数に連動。



テーマから選んで投資できるもの。いずれも長期的な成長が期待できる分野をピックアップしている。6つの投資信託間のスイッチング手数料が無料なので、これらのテーマの切り替えにはコストがかからない。自分でテーマを選んで投資したい人に向いている。

「AIセレクトメガトレンド」は、AIが膨大な情報を解析し、投資テーマに関するトレンドの変化を定量化、あらかじめ設定されている10以上のテーマから、注目度の高い4つのテーマを選定する。テーマ選びを人間ではなく客観性の高いAIに任せるのが特徴だ」

テーマ投資で最も難しいのが、正しいテーマを選ぶこと。その一助として、投資のプロが用意したテーマを投資家自らが選ぶ「GRAN NEXT」や、テーマ選びをAIに一任する「AIセレクトメガトレンド」などを自分のスタイルにあわせて活用することで、有望なテーマ投資ができるだろう。これからの社会を動かすものは何か、テーマ投資を通して見てみるのも面白いかもしれない。

主なリスクと留意点

必ずご確認ください

●投資信託やETNを通じて株式に投資する場合、各商品の価格は株価の変動や参考とする指標の変動等の影響を受け、変動します。また、ETNは裏付けとなる資産を保有せず、発行体となる金融機関の信用力を背景として発行されるため、発行体の倒産や財務状況の悪化等の影響により、価格が下落する可能性があります。したがって元本が保証されているものではなく、損失を生じるおそれがあります。●GRAN NEXTの各商品での運用にあたっては最大3.3%(税込)の購入時手数料や、最大年率1.883%程度(税込)の運用管理費用等がかかります。●ETNの売買取引には、約定金額に対し最大1.43%(税込)の売買手数料がかかります[ただし約定金額が193,000円以下の場合には最大2,750円(税込)]。本資料掲載のETNの管理費用は年率0.95%です。●費用の合計額やその他の費用は保有期間等により異なりますので、表示することができません。各商品のリスクや費用に関して詳しくは、目論見書や契約締結前交付書面等でご確認ください。●本広告に掲載されているデータ等は過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。●本広告は当社が信頼できる情報をもとに作成したのですが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

www.sc.mufj.jp

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2336号

加入協会:日本証券業協会・一般社団法人日本投資顧問業協会・一般社団法人金融先物取引業協会・一般社団法人第二種金融商品取引業協会

自分でテーマを選ぶかAIに任せるか

これからテーマ投資を始める場合、ポイントが3つあると三菱UFJモルガン・スタンレー証券のアドバイザー開発部長の三宮洋一氏は言う。

「まず、長期的なテーマを選ぶこと。一時的なブームに終わるものではなく、10年20年単位で起きる大きなトレンドの波に乗るのが理想的だ。2つ目は、誤ったストーリーに惑わされないことだ。例えばAIは発展途上のテクノロジーであるが故に、荒唐無稽な成長ストーリーが語られることがある。そのストーリーが信頼に足るかどうかなを確認するには数字や事実の検証が必要だが、誰しもその手間を惜しん

でわかりやすいストーリーを求めがちだ。3つ目は分散投資だ。選んだテーマが正しくとも、そのテーマの中でどの企業が勝ち組になるかを予想するのは難しい。テーマは絞りつつも一点に集中するのではなく、複数銘柄に分散して投資することを勧めたい」

とはいえ、そのテーマが短期的なブームに終わるか長期的に大きな変化を生むか判断するのは難しい。そこで注目したい投資商品が投資信託「GRAN NEXT」とETN(指標連動証券)「AIセレクトメガトレンド」だ。「GRAN NEXT」はエネルギー、モ

表1 S&P500指数とフィラデルフィア半導体株指数の変動率

	S&P500指数	フィラデルフィア半導体株指数
最大上昇率(日別)	5.6%	10.2%
最大下落率(日別)	-4.3%	-6.2%
期間中の最大損失率	-25.4%	-46.3%
(2022/11/30以降)	(-10.3%)	(-17.5%)

出所:QUICKのデータをもとに三菱UFJモルガン・スタンレー証券作成

2点目の留意点は、群集心理による影響をもろに受けることだ。例えば、「宇宙での発電・送電技術において画期的なブレイクスルーがあった場合、それに貢献する新技術を開発したA社の株は2倍の収益を生む」との予測があったとする。そこに群集心理が働き、A社への期待が先行して大勢が株を買い漁ると株価が2倍以上に跳ね上がることがある。しかし、一定期間を過ぎると新技術に対する幻滅や飽きによってA社株はいったん下がる。その後、A社の技術が本物であれば社会に定着し、株価は

体投資するインデックス投資、成長企業株を買うグロース投資、本来の価値より割安な企業株を買うバリュウ投資などさまざまなスタイルがあるが、そのなかでもテーマ投資は同じ理由によって一斉に上下するため、価格変動が大きい。上がっているときはよいが、たいていの投資家は株価が下がり続けているときに耐えきることが難しく、いつかは上がるというストーリーを信じきれずに手放してしまいがちだ。手放すか持ち堪えるか、手放すならどのタイミングかを見極めるのが重要だ。

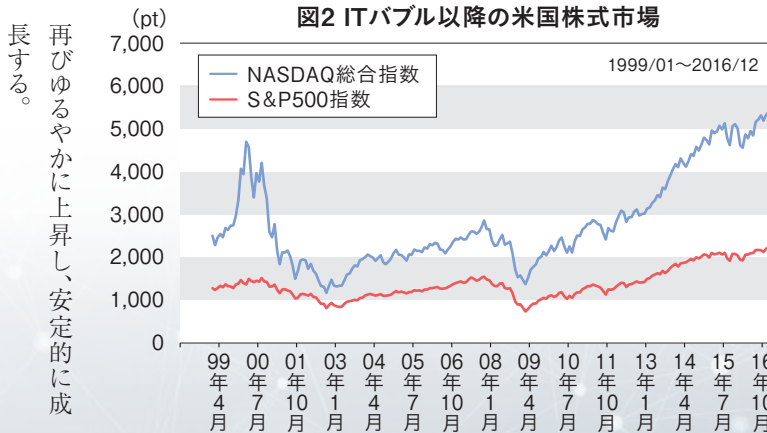
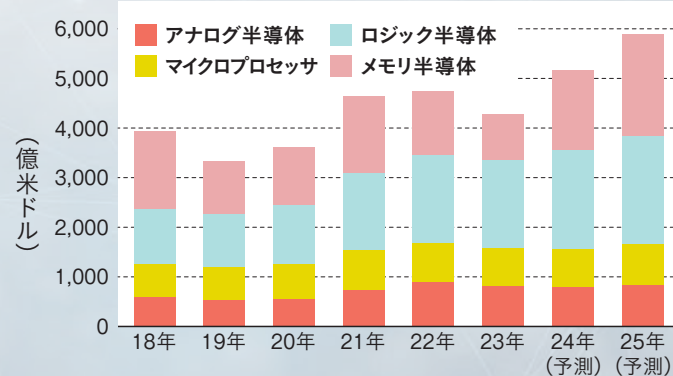


図3 世界の半導体IC 製品別市場予測



3点目は、銘柄選定の難しさだ。当然のことだが、例えば半導体業界が好調といつても、全ての企業の株がエヌビディアのように上がるわけではない。半導体のICチップに限定して見ても、ロジック半導体(パソコンやスマートフォン)の頭脳にあたるCPUやGPUなどは好調だが、データの記憶に用いられるメモリ用の半導体は2022年から23年にかけて世界市場の売上高は約3割も落ち込んでいる(図3参照)。また、企業によっては一部の事業が好調でも、他事業に足を引っ張られて株価が想定通りに上がらないこともある。

テーマを絞るからこそ浮き沈みは大きい